

令和3年度事業計画

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業計画

令和3年度法人目標

- ・ICT活用と働き方改革を更に推進し、業務効率を上げる。
- ・災害に遭っても事業を継続できる強い法人づくりをめざす。

○法人事務局

実施事業

- ・理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理を行う。
- ・収支状況等の法人の運営上の課題について情報を内外から収集し分析する。
- ・その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告。
- ・全施設・事業の経理・総務・人事の集約
- ・働き方改革、健康増進法などの法令厳守。

取り巻く環境

かねてからの人手不足に加え、新型コロナウイルスの感染拡大により、職員の生活環境と各事業所の人員配置にも変化を強いられている。異動・応援といった流動性も担保しつつ、職員一人ひとりに合わせた働きやすい職場が求められているが、同一労働同一賃金の問題など、職員の納得・理解を得ながら「働き方改革」を進めていく必要がある。

地域共生社会の実現のため、介護・障がい両分野を運営する本会の役割は大きい。「地域と共に生きる」の理念を実践するための努力が必要である。

事業の重点項目

毎年の課題の一つである人手不足の解消のために、新卒採用・中途採用の強化を打す。具体的には広告やホームページ・SNS等で積極的に情報を発信していく。採用活動を計画的に行うための予算を確保し、リクルート用パンフレットの作成するなど注力する。

引き続き「働き方改革」として、平日・日勤のみ勤務職員や週休3日・時短勤務の正職員、夜勤専属職員など多様な働き方を促進し人材確保に努める。

人材育成については、コロナ禍から従来の研修方法の見直し、事業間交流の仕方を工夫し、法人全体の意識統一を図る。ストレスチェックの導入を図り、安心出来る職場環境を整える。

8050 問題など多様な地域課題に対応するため、かきつばたの増床移転計画や居宅介護支援事業所かきつばたへの相談支援事業の集約化、ことぶき庵一休の立ち上げ事業がスムーズに進むよう、法人としてバックアップする。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員 50 名）
- ・施設入所支援（定員 40 名）
- ・短期入所（定員 8 名）

取り巻く環境

山武圏域では重度知的障がいをお持ちの方が利用できる事業所は限られており、宿泊利用のニーズは多く、施設入所を希望する問い合わせや短期入所の利用についてのニーズが多く見られている。しかし入所待機者は依然として多く、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応として、事業所の併用の禁止や、個室での受け入れを原則とするなど受け入れに慎重になっている。入所利用者様においても、外泊・外出を控えていただいております。今後の感染状況によって多様な対応が必要となってくると思われる。

昨年度導入した、眠りスキャンと見守りカメラにより利用者様の安心、安全の向上がみられているが、引き続きさらなる安心、安全の向上を図っていく必要がある。

本年度開所 20 年を迎え、入所利用者様の平均年齢は 45.2 歳と高齢化してきている。また、施設設備も経年劣化してきている。そのため、生活様式の変更やニーズに合わせて見直しを実施し、設備については修繕や新規購入を検討する必要がある。

職員については昨年度より 6 名入職されている。職員数については事業を実施していくための最低人員は確保されたため、全職員が活躍し定着できるような教育・育成体制を整える必要がある。

昨年度末に防災井戸・非常用発電機を整備した。福祉避難所の指定を受けているため、有事には入所者はもちろん、地域で生活する方々の避難先として積極的に受け入れを検討していく。

相談支援事業については、居宅介護支援事業所かきつばたと大網白里エリアでは重なってしまい、有効な人員配置のために検討する必要がある。

事業の重点項目

- ・利用者様の安心・安全を向上させるため、人権尊重と虐待防止の徹底を行う。

そのために、外部研修への参加と権利擁護委員会を定期開催し、意識をさらに深め、虐待防止の徹底を図る。

- ・コロナ禍でも楽しんで取り組むことができる活動の提供や環境整備を実施し、やりがいや充実した生活、楽しんで活動ができるようにしていく。
- ・職員の定着にも重点を置き、職員育成・業務内容や時間の見直しを行っていく。
- ・今後も有効な ICT 技術を積極的に導入し、利用者様の安全・安心の向上と業務の負担軽減を図っていく。
- ・災害時には福祉避難所として地域の方の受け入れ先として地域貢献できるように災害時への備えを行っていく。
- ・施設設備が経年劣化してきているため、随時補修、改修を実施。利用者様の生活しやすい環境の整備を行い利用者様の QOL 維持向上に努める。
- ・相談支援事業については山武みどり学園は廃止とし、居宅介護支援事業所かきつばたに経営資源を集約する。これにより 8050 問題など障がい者を持つ家族を一体的に支援し、介護保険との連携を深める。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（6 名）

取り巻く環境

施設入所の空きがなく、一休を利用しながら入所待機をする方や、将来を見据え宿泊体験をしておきたい方など利用の目的は様々である。昨年利用者様より頂いた苦情への対応として同性介助を徹底するため、原則男性利用者様のみの受け入れとなっている。そのため長期的な女性利用者様の受け入れが困難になっている。不定期で利用している方もいたが、新型コロナウイルスに伴う対応により利用を見合わせるが多くなっている。

事業の重点項目

- ・安心して宿泊していただけるよう、職員配置の見直しを行い、複数の職員が勤務できる体制を整備する。
- ・不定期で利用されている方へ、山武青い鳥工房やすえひろ工房やまぶきをご利用いただけるよう、送迎等の体制を整える。
- ・定期的にご利用いただける方を確保する。
- ・新入職員に対して権利擁護等の研修を行っていく。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

取り巻く環境

山武圏域の地域によっては、生活通所事業所がやや不足している状況ではあるが、大網白里市を中心とする近隣市町村では、生活事業所が増えている状況であり、利用者様の多くが複数の事業所を併用して利用している。

令和2年は、新型コロナウイルスが流行し、特別支援学校からの実習生や新規利用希望の相談はほとんどない状況である。3年度は、特別支援学校からの実習生を受け入れ卒業後の利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。

事業の重点項目

- ・感染症対策（特に新型コロナウイルス対応）を強化する。
- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。
- ・利用者様のニーズも多様になってきているため、個別の活動メニューを再検討するとともに、受注作業も継続して実施する。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながる働きかけをする。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

取り巻く環境

山武圏域での放課後デイ事業所の増加は著しいものがある。御家族様が利用する事業所を選べる環境は整いつつあり、事業所間の競争も激しくなっている。

現在、新型コロナウイルスの流行により放課後等デイの利用を控える傾向が続いています。今後の状況を把握しながら相談新事業所等と連携して利用児童の確保に努める。

令和3年3月の報酬体系等の見直しでは、基本報酬の区分制度の廃止、従業者を児童指導員、保育士のみとする配置人員の厳格化、医療的ケア児を受け入れる場合の看護師の必置など制度、報酬等が大きく変更されることが想定され、その

変更に対しての対応を図る。

事業の重点項目

- ・感染症対策（特に新型コロナウイルス対応）を強化する。
- ・「子ども食堂」等を活用し広報活動に努め、新規の利用児の確保につなげる。
- ・療育活動メニューの充実。
- ・学校等関係機関との連携の強化。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員 6 名）

取り巻く環境

平均年齢は 65 歳と高齢化が問題となっており、転倒や体調不良での通院が増えてきている。休日にラジオ体操にロコモ体操、散歩に行くなど体を動かす機会を設けている。また 4 名の方が定期通院をしている為、医療機関と本会看護師との連携も益々重要となってくる。新型コロナウイルスが猛威を振るっている為、マスクの着用、手洗い、ウガイ等しっかりと行っていく。

事業の重点項目

- ・新型コロナウイルスによりイベント中止が増えており、ホーム内で楽しむことを増やす。
- ・外出する際は、人通りが多い場所、密集している場所を避けて、新型コロナウイルスの感染を防ぐ。
- ・日用品の購入等は利用者様と一緒にいき、利用者様の好みの物をご自身で選んで頂く。
- ・日中活動先と連携し、体調不良時や怪我に対しての受診を迅速に行う。また、散歩など体を動かす機会を設け、身体機能の維持に努める。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員 20 名）
- ・特定相談支援事業、特定障害児相談支援事業（山武みどり学園松尾）

取り巻く環境

就労系事業所も含めると日中通う場所については、近隣地域ではある程度選

択肢があるため、現在ご利用いただいている方についてはほとんどが併用利用となっている。

令和2年3月後半から6月までの事業所休止、コロナ禍という状況が重なったこともあったが、令和2年度の新規利用者様はゼロであった。(契約は行うが利用に至らなかったケースあり。日中一時支援事業は新規利用あり)。

事業の重点項目

- ・営業休止したことにより失った利用者様やご家族、関係各所からの信頼を回復できるよう、安定した事業運営を心掛ける。稼働率の上昇を目標にして安定した収入を確保する。
- ・特色の一つでもある作業活動を維持できるよう、現在いただいている仕事を継続しながらも、利用者様が出来そうな仕事の情報を収集し、積極的にチャレンジしていく。
- ・新規利用者様の獲得。法人内の入所施設やGHの利用者様に頼っている現状を少しでも改善できるようにする。

(新) ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所(5名)

取り巻く環境

山武市周辺の宿泊系事業所については、すえひろ工房やまぶきが開所した平成30年4月以降も依然として不足している。翡翠会としては、すえひろ工房やまぶきを拠点として山武市周辺に事業展開する目標がある。この単独短期入所事業所を開設し、その先にはグループホームの開設に繋げていきたい。

しかし、令和3年4月に山武市・横芝光町にグループホームが開設されることになり、事業所間の競争は激しくなることが予想される。

また「8050問題」のように、この地域にも高齢のご両親とご本人で暮らしているご家庭も存在する。GH入居も視野に入れた潜在ニーズの掘り起こし等も必要になってくると思われる。

事業の重点項目

- ・年度内の開設を目指して準備を進めていきながら、定期的にご利用いただける方も確保できるよう努める。
- ・事業所を知ってもらえるような企画を立てる。昨年末に行ったクリスマス会のようなイベントを通じて、地域にお住まいの皆様実際に事業所を体験してい

ただけるような機会を設ける。

○かきつばた

実施事業

- ・地域密着型高齢者小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員 24 名 通いサービス利用定員 12 名
宿泊サービス利用定員 4 名
- ・共生型生活介護
- ・共生型短期入所

取り巻く環境

登録人数 23 名 平均年齢 80.5 歳 最高年齢 96 歳 最低年齢 52 歳
共生型サービス 1 名

令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、認知症カフェの開催はできなかったが、子ども食堂をひとり親世帯への配食弁当というかたちで行い広報活動に努めている。新規のご相談の際に良い評判を聞いていると云ってくださる方もおり、登録定員も高い水準を維持する事ができた。

以前から利用されている方や新規のご利用者様においても高齢化や身体機能の低下されている方が見られ、その方に合わせた支援の提供や業務体制が求められている。

事業の重点項目

- ・ほほえみの里かきつばたや居宅介護支援事業所かきつばたとの連携を継続し、利用者様の獲得や登録定員の保持に努める。
- ・利用者様の状態の把握に努め、変化に応じて他事業所とも連携し本人にあったサービスの提供ができるよう協力する。
- ・利用者様の日々の状態把握を確実にいき、家族や関係者と連携し、皆さんに喜んで頂けるような支援を心掛ける。
- ・大網白里市をはじめ、近隣の市町村や各種団体との協力、認知症カフェ、介護支援ボランティアの受け入れにより、地域の繋がりを深めると共に信頼関係を構築する。
- ・新規のご利用者様や継続して利用している利用者様も、ともに高齢化や身体機能の低下によって提供する支援が多様化してきている。職員間で情報共有を密に行い、利用者様ひとりひとりに日々対応していけるよう努めていく。
- ・増加するニーズに対応し定員を増やせるよう、令和 4 年度に増床・移転を計画している。今年度は移転に向けてしっかりとした準備が行えるようにする。

・職員全体で会議や研修に参加する事で互いに学び合い、より良い支援を目指すことが出来るような環境を作り上げる。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護
(定員 18 名)

取り巻く環境

平均年齢 86 歳 最高 99 歳 最低 74 歳 平均介護度 3.1

- ・入居者様の高齢化により身体機能の低下・認知症状の維持が難しくなってきたり、職員の医療・感染症の知識と介護技術の向上が望まれる。
- ・医療との連携の強化を図りながら、ご家族への相談対応をタイムリーに行っていく必要がある。
- ・退居から入居へ結び付くまで時間を要し、なかなか空室が埋まらない場合もある。
- ・人手不足が深刻な状況である。求職応募者も高齢化しており、業務の簡略化や派遣社員の活用も必須となっている。

事業の重点項目

- ・小規模多機能や居宅介護支援など法人内の事業所と連携を図り速やかな入居へ結び付けていく。
- ・随時、待機者へ状況確認を行い、行政・介護事業所へ情報提供や収集を行い入居に繋げる。
- ・地域ニーズに添えていくため、短期入所生活介護体制を整えていく。
- ・入居者様が安心して生活して頂くようユニット会議・職員会議を通して、情報・ケアの共有化を図る。また感染症対策・身体拘束廃止などの研修については、e ラーニングを活用し人材育成を図る。
- ・事業所が浸水想定区域内であるため、台風・豪雨災害避難訓練を定期的に行う。浸水用バリケードなど防災器具訓練も同時に行う。火災は年 2 回、地震も想定して定期的に訓練を実施する。また区長と連携し、地域への協力体制を整えていく。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・特定相談支援事業
- ・特定障害児相談支援事業

取り巻く環境

要支援 25名 要介護 33名 障害 19名

居宅介護支援では56歳から96歳、80代後半から90代の利用者がほとんどを占めている中、若年性アルツハイマーで被保険者介護家族が20代の家庭があり、高齢化による要介護者が増えることに加え、若年の親の介護で若い世代の介護離職、金銭的問題も相談支援していかなければならない。現状受けている相談支援ケースでは、支える両親が80代後半と今後親世代の介護支援も必要になると思われるご家庭がある。昨年同様にどのような状況の方でも受け入れるスタンスの周知が進み、急な体調変化でサービスが必要になった利用者様の相談が小規模多機能サービス、居宅介護支援、どちらかで支援してほしいという相談依頼が増えた。

居宅⇒小規模多機能⇒ほほえみ里かきつばたへと住み慣れた地域での生活の継続、居宅担当者様の小規模多機能かきつばたでの受け入れなど介護事業所間の連携ケースも増えている。

事業の重点項目

- ・介護・共生・障がいと本法人の展開する多様な福祉サービスを活用し、どのような状況の方の相談にも対応する姿勢を継続していく。
- ・かきつばた・ほほえみの里かきつばたとの連携を今まで以上に推進していくと共にみどり学園、青い鳥工房など法人内の障がいサービス事業所との連携も深めていく。
- ・相談支援利用者様を、ご本人だけでなく家族単位で支える視点で支援する。
- ・千葉市など山武郡市以外の方の相談も積極的にお受けしていく。
- ・山武みどり学園の相談支援事業を引き継ぎ、法人の相談支援事業の中核事業所となれるようケアマネジメントの質の向上に努める。